



大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和8(2026)年
7月号

通巻 671 号
毎月23日発行

(題字 矢追日聖)

★発行日 令和8年7月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷 監修
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



大倭紫陽花邑のカシワバアジサイ

(齋藤正宏さん撮影)

座談会・法主を囲んで(再編集版)

みそぎ

禊を通して生き方を考え直す(第4回)

法主 矢追日聖(満64歳) 他

どんな状態でも苦にならない

矢追鈴月 そらほんまに、ポンちゃん(※杉本順一)らが学生時代のときなんか、ワークキャンプの若い子らがみんなこの瑞光院の座敷でも、ごろごろ寝ながら話したり、床の間やのに腰かけたりしたりね(笑)。私としたら、法主さんが座って話してはるんやし、せめて座って話し聞けばええのにと頭にきてたけれども、それは直接よう言わなんだわ。それで心の中で、「このガキめつ」というような事も思っとったけどね(笑)。

それがこの頃は、禊会に行くようになって、気にならんようになっただけ氣楽やわ。

人の話を聞くという事でね、法主様の話しだけに限らず仮に森下さんが話してるとすると、私は森下さんの話に関しては何も関係ないわけよ。それでも一生懸命、森下さんが話してはるのに、みんな銘々な事言うてたりしたら、ああ、せめて自分は聞いてやらなんだら、この人に対してすまんなというような気があって、結局聞くわけやねん。私はやで。そうしたときに、傍でペチャクチャ言うてたらな、「黙つてもうちよつとまじめな態度で聞いてやったらええのに」と、私はしよつちゅう思ってた。

ところが禊会に行くようになってからは気にならんようになったんや。それに自分が喋ってる時でも、人が聞いてようが聞いてなからうが、そんなもんは、ほ



矢追日聖法主

でものを言えというて、元(げん)青山山日三(さん)にでもよう言っただけどな。

人まに気にならんようになった。他の人が話してるときに、不まじめな態度でいるのを見て、何で自分が気になるのかという事を、自分でああでもないこうでもないと考えてるとな、結局は、自分の言わんとする事を相手に分からせようとか、それを正しいんだから聞けというようなね、自分に思い上がりのようなものがあるから、不まじめな態度してたらやな、気になるんやなど。そんな気持ちには拔かなあかんという事にハツと気付いたんや。禪会に行つて。

それからね、我がの言うてることに耳傾けてくれないかて、そんな事にならない。結局ね、なんで我ががそういうようなことが気になるんかっていうことを自分でいろんなことを考える。それから気楽になったわ。

法主 そんなもの銘々に任しといたらええねん。軒かいてようが、ベチャクチャ喋つてようが、私はなんにも思わへんもん。ラジオの声と一緒に(笑)。ラジオは鳴つたら止まるまでずーっと喋つてるがな。

私はいつも、自分が話さんなときでも、相手が聞いとるものは聞いとつたらええし、聞かんものは聞かんであえしと思うねん。

街頭宣布で話してた時なんか、何やつてるのやという感じでシユーと人が来て顔だけのぞいて、またシユツと行きよる。街頭ではそれが当たり前や。みなごちやごちや喋つとる所やろ。そこでたとえ一人も立ちどまって聞くんがなかったかて、同じ調子

青山山日元 一番きついことです。

法主 それが平気でやれるようになってこないとな。大勢の人が集まったから元氣出して話そうとか、誰もおらんから話をええかげんにしとこうとか、相手によつて自分の気持ちがちよつちゅう変化させられるような自分じゃあかんということやな。自分は自分やわな。外的条件によつて自分の心境を変化させられるような自分じゃつまらんて、私は言うんやな。

私が拜殿で月次祭の時に大体30分話していると、きでも、そりや立つて見ているんやから、みんな座つてるとし全体が見えてるがな。すると後ろの方ではベチャクチャ喋つてるわな。それでも私は何にも気にならん。言うてる内容は全然変化あらへん。同じ調子で言うてるねん。全然変わらんわな。

学生なんかここでガタガタと寝転んどるわな。女のもんでもズボン履いてあぐらかいとる。それは女やつたら昔の躰(しづ)からしたら行儀悪いって言うわな。

また床の間に座りよる。常識から言うたら、床の間というところは部屋が一番上やから、座つたらあかんとか、そら昔の人は言うよ。

森下新蔵 言いますわな。

来ることに意義がある

法主 けど現実には今の若い者がそうやって座つていたからというても、ワシは気にもならん、苦にもならへんわ。

そんな事より、それよりもその前があるねん。わしの思惑では。宗教みたいもん否定するようなもんもおりや、大倭がなんや知らんようなワークキャンプの学生がやで、何人か寄つてここまで足

を運んで上がつてきてるつていうところにな、私自身の喜びがある。

床の間で座つてるともかまへん。あぐらかいとつてもかまへん。そんなもんや。ここまで学生が出てくるつていうことが、訳がわかつてるわからんでも出てきて、俺なら俺に会おうかと思つて、冷やかしてもええやん、なんでもな。冷やかしがじきに引つかかりよるねん、世の中はな(笑)。なんでもかまへんやん。来るつちゅうことに意義がある。来てからの態度はなんでもええねん。くさしとつてもええやん、寝転んどつてもかまへんやん。

例えば坊さんが仏像の前で、これが久遠の本仏やと思つて木魚たたいてお経あげとる。するとねずみがちよろちよろのぞいて、仏像の上から小便かけたり、足かじつたりしてんねん。それを坊さんが一生懸命お経あげて拜んどんのや。これ考えてみい、おもしろい話しやで。世の中こんなもんやで。

結局ものにとらわれないでね、形の一步奥やな。学生がいうように冷やかしにきてもかまへん、出てきて女の子があぐらかいとつてもええやん。ひつくりかえつとつてもええやん。床の間に腰掛けて座つとつてもええし、加美さんのお供えのカワラケ(※素焼(すやき)の杯)を灰皿にしとつてもかまへんやん。その学生でもね、大倭へ寄つてきて、ここで何かこう掴むようなものを本質的に持つてきてる人たちや。それを俗に言う縁(ゆかり)やつや。

ここまで上がつてくる、そこに本当の意味があるねんからな。目先の見えた現象、あるいは言葉態度とかね、そんなによつてこつちがフラフラさせられたり、それによつて自分で決めつけたり、そういうなものを自分から取つていくようなのが、これが禪のほんまは本質やねん。そうしたら

我が自身も気楽なら、来る人との争いもなくなるねんな。

また例えば、私が話しているときに、さっきの話しにあったみたいに、「あんたらさつきから法主さん話してんのに、ペチャクチャ喋らんと」と言うたすると、言う方も不愉快なら、聞いた方も不愉快やと思うねんな。そしたら今度から、「喋ったらまたうるさいやつがおるから黙って聞いてよう」となってしまふ。頭は空っぽでもな。そんなのは面白ろうない。

そやから、こだわらないとか、とらわれないとか、この頃やったら許し合うという言葉を使うけれども、お互い気楽にいくような認め合い方というもんがないと私はいかんと思う。一方的に自分の枠にはめて、相手を批判していくというのも、これもよろしくないと思う。私は喫茶会は一つの訓練の場やと思う。

霊動や神がかりは第2次的なもの

だから現界の生きてる人間を対象とした喫茶会なやから霊界の話しやとかあるいは霊動やとか、神がかり的な事とか、これは第2次的な問題や。またあんなものにとらわれたら興味本意になつてしまふねん。それで現実の人間性をなくしてしまつたりして、いわゆる誇大妄想狂みたいに自分で勝手に決めてつけて、自分でおかしな歩み方するようになるかもしれない。いわゆる盲目的のぼせ上がってしまうというような、これもまた慎しみなあかん問題やしな。喫茶会というのは、いろんな意味を含めて私はやってるつもりなんや。自分個人がいわゆる功罪とか効果を狙うとか、そんなんやったらわしが全然行く必要ないんやな。行っても行かんでも一緒やねん。けれどもや

っぱり自分自身が続けてきて、それがまた自分もそれに参加する、何にも意味なしに参加しとるけれども、それに参加できる自分というものね。やっぱりこれも人間としての訓練や。

だからダンチ(※柴地則之)にも言うて笑うんやけどな、私は毎日日記をつけてんねん。当用日記やわな。なんでもないけれども、毎日自分の個人のこととか、自分の周辺の取り巻きのことの内容でもそれはかまへんわな。当用日記の1ページ、これきつちりと毎日欠かさんと書けただけでも喫茶会の効果は十分あるねんで。



座談会の日の法主の日記

自分でやろうと思っても、まあもの10日続いたらええ方や。もう1日抜けてしまふ、2日抜ける、「ああもうめんどくさいもうやめてもうたれ」というのが、まあ案外多いわね。世間でも。だから別に宗教的なものやなしで、仮に自分個人の日記ひとつでも1日も欠かさんと毎日きつちりつけていく人であつたらな、かなり人間そのものの精神内容はできてると思う。そやから今のこの喫茶会でも毎月1回やってるのに参加する、そのことを毎回日記に書いているもん。同じ心境やねんな。

つまり結局自分に対しての訓練やねんこれは。午前2時3時になったら寝たいわな。それでも寝る前に日記書いているもの。もしもその時に書けなかったら、その日のものをちゃんと全部メモに箇条書きにして日記に挟んどいて、翌る日に書くねん。まあこれも大抵努力いるで。

森下 そりやそうだし。

法主 これやったら誰でもできる。お前いつべん

やってみとか、言える問題やから。でもなかなかできるもんやないで。

鈴月 あのね私ね、喫茶会に出てくるときに、年とかという問題で片づけたらあかんけどね、年いつてきたら皆一緒やと思うけどね、若い時はあんまり思わへんかったけどな、最近は気楽に生きたいなあとと思う。死後の世界とかな、死んで、極楽か地獄か知らんけどね、楽に生活しようなんて、そんなことは別に思わへんけど。やっぱりなあ生きてる間はな、私ほんまに気楽に生きたいなっていうことはつくづくそう思うね。それはやっぱり年のせいかなとは思わねんけどな。

そうすれば喫茶会の時なんかで人の前でやね、たとえ一つでも今まで苦になつたもんが気楽になつたら、それだけすぐ楽になるねん。私は気楽になりたいなとこの頃つくづく思う。

何かあると私はすぐに顔に出るわけ。自分では分からへんねん、顔に出てるちゆうことが。そして「またあつて法主さんに言われるわけやな。自分がそんなつもりじゃないのにと、やっぱり抵抗するねんな。でもそんな時はやっぱり側から見えてそない見えるっていうことは、やっぱり自分がクシャクシャ思うてんねんやろなと。」

気楽になつていったら、そういうこともないようになるのかな。気楽になりたいと思うね。年のせいかなあ。いろんなこと考えたりな、ああでもない、こうでもない、さつきから何回も言うけどやな、足伸ばして腰下ろして、うじゃうじゃ言うてんのがそれが気になるとか、あのガキめとかな、死ぬのも近いのかな(笑)。

福祉の精神とは

法主 今日かてみてみい、前に話とつたKさんい

う人、東京から来たやろ、あの人文部省に勤めてはる人や。あの人の兄さんが脳性麻痺で、今40なんぼで、この頃奥さん腰痛起こしてな、風呂入れるの大変やねん。

鈴月 今日きはった人の奥さんがお風呂入れてはるんやね。

法主 今日来た人と兄さん一緒に同居していはるのや。2歳か3歳の時に脳性麻痺になって、軽い方やつたらしい。

それでその当時は特殊学校に行ったりな、教育を受けたりずっとしてはったんやけど。ええかげん年になってからも松葉杖ついたりして歩いたり。それでまあ教育もかなり受けてはるわけや。

3、4年前って言うてたかな。神経炎って言うのかな、急に出てきて、体全身がもう疼いて、痛うてしやあないんやつてな。それからいつぱんにガタツと病気が進んで、今は大体寝たつきりぐらいやと思う。

ところが、年いった母親が生きてんねんな。それも近所におって手伝いには来てはくれるねんけれども、今日来たあのひと、奥さんと2人で、1週間に1回ずつ風呂に入れてるって言うてた。それはもう重たいし、ぼちぼち音を上げかけているねん。

それで特殊教育課における人やから東京中をあっちこっち回っては見てんねんけれども。

今ぎょうさん施設空いとんねんな。ところがそれでも入れてくれへんねん。それでここを紹介してくれた人がおつたらしい。

その人が日本中どこ行つたかってあかんのなら奈良の菅原園の園長さん(※当時園長は法主だった)にいつぱん相談してみたらどうか、他ではおそらく具合悪いやろうと言うてくれて、それを聞いて手紙くれてん。それでまあ今日来てすぐにこ

こに入れて欲しいっていうことは厚かましいからよう言わんかったけどな。最近はいぶ困つてるとうな口振りやつた。神経炎になってから、ずっともう重症になつてんねん。

岸野春子 住苑者で何とか自分で身の回りのことしていかねあかんと思つたけど急にダメになった人がいる。

鈴月 その人ここへきてからそうなつたんか。

岸野 いや、家に居てる時から難儀してて。

鈴月 痛みとか残つてないの。

岸野 痛みとか残つていいると思う。

反保香須弥 でも法主さん、変わつてな。うちいつでもこんな話聞いてると思うねん。なんかな、福祉という仕事をするのに、人の選り好みなんかしたらあかんと思うねん。あの人は重たいから断

「座談会」再編集作業に取り組んで

京都市 三宅淳之

編集に関わったきつかけ

私が大倭にご縁をいただいたのは今の拝殿が完成してすぐの時でした。今回の掲載文「みそぎを語る」の元々の音源が録音されたのは昭和51年。私が7歳の頃です。岡山の田舎生まれの私にとつては大倭とはまだご縁もない時です。でもこの音源を1人で拝殿で聞いた時に懐かしさを感じました。それはきつと今の拝殿ができた頃の禊會に参加させていただいていた時と同じ雰囲気を感じたからだと思います。

そういつたことを最近参加した禊會で話したところ、編集部の岸田哲さんが興味を持たれたようです。禊會から数日経ったある日、「三宅さんが

るとか。人を選り好みするのやつたら何のために福祉の仕事してるのか、やつてる値打ちがないと思う。

法主 せやせや良いこと言う。

香須弥 やっぱり、困っている人いるのに、その人がいるためにその家の人が生活できないというのに何で引き取つてあげないのかなと思う。人がいつぱいで入れないんやつたら仕方ないけど。

法主 そらな、福祉の精神よりも、福祉施設の経営ということに重点置きよるねん。それで都合のいい人は取つて不都合な人は取らないねん。これが商売みたいな気持ちになつて来とるんや。福祉をやっている人が。宗教でも宗教の精神どつかにいつてもうて企業化しとる。福祉の世界もそうなりつつあるねん。(続く)

拝殿で聞いた音源、「法主と語る」を『おおよまと』に「禊を通して生き方を考え直す」と題して連載することになったんだけど、その編集をしてみない？ まあ言い出しつぱは三宅さんなんだから「電話の向こう少し笑いながら話しかけられた岸田さんに乗せられ、調子に乗って「はい、やります！」と言つたのが運の尽き(笑)」。いざ編集作業をやってみると大変でした。AIに概ねの文字起こしをしてもらっているとはいえ、それでも1分間の音声をキチンと文字化するのに30分以上かかる部分は沢山ありました。今回編集作業に関わらせていただき、毎月『おおよまと』を発行する大変さを痛感しました。

「自由人であれ」「囚われるな」

この一連の記録の大きなキーワードは2つあるように思っています。1つ目は「自由人であれ」

2つ目は「囚われるな！」だと解釈しています。自由人であれ、と解釈した理由は文中に時折出てくる、法主さんご自身の融通無碍・神人冥合・極楽浄土などといった言葉から考えられます。また法主さんご自身の「人間の本当の自由性というのは、どんな環境におかれても、それで屈託もないし悩みのないというような事とちがうか。そんな心境になったらな、これは一番自由人やと思うねん。」と言った発言からうかがえます。

また、もう1つの「囚われるな！」も同様です。法主さんの「天衣無縫」というのかな、禪会は自分にとられない心境になるひとつの訓練やと思う」という発言から推察できます。善悪感にも囚われるな！ 自分の決めつけに囚われるな！ 教義にも囚われるな！ 経典にも囚われるな！ 禪会に参加しても効果に囚われるな！ 人の態度に

も囚われるな！ 常識に囚われるな！ 慣習に囚われるな！ 修行にも囚われるな！ 霊動にも囚われるな！ 見えたものに囚われるな！ 霊動した人が発した言葉に囚われるな、信じる必要もないし、否定もしなくて良い！ 従来の福祉施設の経営方針にも囚われるな！ 福祉職員のストライキにも囚われるな！ たいしたもんや(笑)。今回の書き起こしの前半部分を「囚われるな」という言葉をキーワードにし、要約したら概ねこんな感じでしょうか？

後半以降を要約しつつ拡大解釈すれば、現世利益に囚われるな！ 人間の成長にも囚われるな！ 言挙げする、しないに囚われるな！ つてことにもなりそうです。さらにもっと拡大解釈すれば、禪にも囚われるな！ 初歩の禪にも囚われるな！ 本質的な禪にも囚われるな！ 最終的には、囚わ

れないことにも囚われるな！ だって普通に生きてりや見たものや聞いたものに囚われることって当たり前ですよ、人間だもの♡。もっと気楽に生きたらええやん！ つてことにもなります(笑)。まあここまで拡大解釈すると訳が分からなくなりますが(笑)。

冗談はさておき、囚われることの害を平易に考えると「自分の思いに振り回されると心が窮屈になること」ではないかと思えます。囚われという言葉の如く窮屈な状態から離れることができれば心の自由を得ることができるのでしょう。とはいえ私のような娑婆のど真ん中に根を張り、煩惱と雑念にまみれた凡夫にはなかなか難しいです。願わくば自分自身で作った囚われを絶え間なく注意深く観察することで、不自由さの中に本当の自由を見出したいと願うばかりです。

じんづうりきによぜ

「神通力如是」の真意をさぐる

第四十三回

大倭教の源流にさかのぼって

今回も霊界から奇稲田姫、天照太神、七面大天女等が登場しますが、倭姫によって矢追家の先祖である天登比人が紹介されますのでじっくり読み込んでください。

原文

十二月五日 午後八時、於鳥見庄山。
倭姫、挨拶、神楽。

「大倭高天原ニ八百萬餘ノ神等ガ 集ヒ
ニ集ヒマシマシテ、我が皇孫ノ聖寿ヲバ

幾千歳ノ後マデモ 代代永久ニ輝キノソ
ノ色イヤニマサルゾト 壽ギ奉ルゾ芽出
度ケレ」

十二月四日大倭日高見國鷄杜ニ於ル金
鷄大祭ノ砌、吾レ^①靈トナリ奇稲田姫命ノ
大前ニテ天津神樂舞ヒ納メ候。
其時ノヨミシ言ノ葉。

「今日ノ佳キ日ニ、コノ高天原ニ八百萬
餘ノ神等ガ、集ヒマシテゾ 我が日本ノ
皇孫ノ 天壤無窮 壽グコソ、芽出度キ
極デアルゾカシ」

矢追家ノ御先祖ハ天登比人ト云ヘル天
上界ノ樂人ノ一人、笛ノ名手ナルゾヨ。
其靈鷄トナリ佳日ニハ、ピーヒョロ、ピー
ヒョロ、ピーヒョロ、ト壽ギ奉ル。

「君ガ代ハ松ノ緑ニコトヨセテ、色永久
ニ変ラヌ松ノ緑、君ガ聖寿ノ事ニテ候。
天壤無窮 皇祖萬靈 聖寿萬萬歳」
倭姫挨拶退ル。

十二月六日 朝七時、於鳥見庄山、太陽
ヲ拝セル時。

天照太神。

雲ハレテ我レ世ニ出テテ光ヲバ 四方ニ
耀クカコソ 我ガ日本ノ皇孫ノ大稜威ノ
力ナリ。我レ題目ノ功德力ニヨリ 雲ワ
ケ出テテ光ヲ出シケリ。

奇稲田姫。

日聖ヨ、ヨク聞ケ、今日來ル善神ハ裏ノ
働、ヨク説キ聞カセヨ。

註、善神とは、本日庄山に参る角田妙
法の事なり。

七面大天女。

吾レ日蓮(註)ノタメ天津皇祖ニ題目
供養、何卒コノ功德力ニヨリ日蓮ヲ守リ
玉ヘ。題目

註、日蓮は日聖の事なり。

「四海波静カニオサマリテ コノ高天原
ニ眞ノ正法立ツ時ハ コレ我レ世ニ出ル
時ナルゾ、

奇稲田姫命御言ノ葉

「松カゲニ旭カ、ヤキ明ケカラス、カア、
カアト鳴クハ芽出度キ極ミ。雀ハチュウ、
チュウト忠ノ道ヲ教ヘ、忠ト孝トヲ明烏
ト雀ガ世ノ人々ニ、朝トク出テテ一日ヲ
其心ヲモテスゴスヤウニ神ノナセシワザ

ゾカシ。烏ノカアト鳴クハ母ヲ慕フ聲、
明烏ノ慕フハ我レヲ慕フナリ。国民ドモハ
各々親ニ孝行ツクセヨトノ言ノ葉ジャ。

天津皇祖ノ御言ノ葉

註 釈

① 吾レ靈トナリ

靈界にいる倭姫が「吾レ靈トナリ」というのは奇妙に聞こえるかも知れないが、「靈」という字には「巫女」という意味もあり、「巫女」となるととも解釈できる。

白川静の辞書では次のように述べている。

「およそ神靈にかかわることをみな靈という。『みこ、かみ、たましい、たま、すぐれる』などの意味に用いる」(白川静『常用字解』《平凡社》による)

② 天登比人

天登比人に関しては本連載の37回(本紙令和7年7月号)で概略次のように書かれている。

——天登比人は奇稲田姫のお供として天降り、鶏杜(大倭神宮)に鎮まり奇稲田姫を守ってきた。これが後世の矢追家である。

③ 裏ノ働

本文では角田妙法について「裏ノ働」と書かれてはいるが、これは法主の言うところの「地下水の精神」、「身心の健康」、「相互の扶助」という三つの大倭の精神による働きのことを指しているのだろう。

④ 角田妙法

この人物は「神通力如是」の中で池上本門寺の開祖でもある日朗の再誕と書かれている。ところがさまざまな資料で調べたり問い合わせもしたのだが、どんな人物か特定できないでいる。

法華経の行者であると推測できるが、引き続き調べていきたい。読者の方で思いあたることがあればぜひ知らせていただきたい。

⑤ 七面大天女

七面大天女については本連載の33回(令和6年11月号)の註釈で説明しているが、今回は法主の次の文章を追加して理解を深めたい。

《私が東京に居った頃であった。昭和十六年九月二十二日の夜だった。神拝していると思いがけない日蓮が現われて「至急に身延へ来てほしい。語りたいことがある」と言う。当時私は三十一歳、日蓮が郷里清澄山の旭森で本化の題目を朝日に向かって唱えた時が三十二歳、何か深い意味があると心得て、明るる二十三日身延へ単身で急行した。息を切らして西谷の御草庵跡へ走った。まず現状をまのあたりに見て驚いた。石の玉垣で囲ってあった中央の題目碑は取り除き、あたりは乱れてあり、常経殿の建設中であつた。前の谷川は昔の面影もなく、料理旅館の庭の如く石積みが始まって、見るも浅ましい僧侶の墮落を物語っていた。深夜ただ一人御草庵前の石段に単座してゆっくり日蓮と対談したのである。老いやつれた日蓮は時々咳きながら最後に一言「身延は汚れた山なり」と言つて瞳をくもらせて立ち消えた。暫くするうちに、白の上衣に緋の袴をつけた美しい五人の少女が前に現われて、「明日は必ずお山へ登つて下さい。七面天女がお待ちです」と使者の伝言を終わって消え去った。私はお招きにしがたが、二十四日七面山へ下駄はぎで上がった。本堂では会えなかったが、引かれるままに辿りついた池の所で七面天女にお会いして、二十五日身延へ下りた》(『やわらぎの黙示』120頁「身延山での奇蹟」)

現代語訳

12月5日 午後8時 鳥見庄山において。

倭姫、挨拶、神楽。

倭姫「大倭高天原（大倭神宮）に数多^{あまた}の高級靈人が大いに集われて、我々の歴代天皇のご寿命について、何千年の後までも代々永久に輝くその色が益々優れたものになると御祝い申し上げるのはめでたいことです。

12月4日、大倭靈界の鶏杜に於ける金鶏大祭の時、私は巫女（靈）となって奇稲田姫の御前で天津神楽を舞い納めました。

その時嘗め讀えました言葉。

『今日の佳き日に、この大倭靈界に数多の高級靈人が集まわれ、我々日本の歴代天皇が永遠に続いてゆくことを言葉にて祝福されたことは、めでたいかぎりのことです』

矢追家の御先祖は天登比人^{アメノヒト}と言う天上界の演奏家の一人です。笛の名手なのです。その靈は鶏となつてめでたい日には、ピーヒョロ、ピーヒョロ、ピーヒョロ、とお祝い申し上げるのです。

天皇の御代は松の縁に例えれば、色が永久に変わらない松の縁です。

天皇の尊いご寿命のことなのです。永遠に続いてゆきます。歴代天皇万靈のご寿命が永遠に続きますように」

倭姫挨拶をして退かれる。

12月6日 朝7時 鳥見庄山に於いて太陽を拝する時。

天照太神「雲が晴れて私が世に出て光を四方に輝かす力こそは、我々日本の代々天皇の大慈悲の力です。

私は題目による功德の力によって雲をわけ出で

て光を出すのです」

奇稲田姫「日聖よ、よく聞きなさい。今日やつて来る善神というのは裏の働きをする者。よく話し聞かせなさい」

註、善神とは、本日庄山にやつて来る角田妙法の事である。

七面大天女「私は日蓮（日聖）のために宇宙神靈（天御中主神・古事記）に対し題目の供養をいたします。

どうぞこの功德力によって日蓮をお守りください」

註 日蓮は日聖のことである。

「世界が平穩に治まって、この大倭神宮に眞の正法が立つ時は、それが私の中で出る時なのです。

奇稲田姫命の御言葉」

「松の姿に朝日が輝き明け方に鳴く鳥がカア、カアと鳴くのはめでたい極みです。雀はチュウ、チュウと忠の道を教え、忠と孝とを明烏と雀が世の中の人々に（教えるのは）、朝早く出て行き一日をその心を持って過ごすようにという神がなされた行いなのです。鳥がカアと鳴くのは母を慕う声であり、明烏が慕うのは私を慕つてのことなのです。国の民達は各々親孝行を尽くしなさいという言葉なのです。

天津皇祖の御言の葉」

第354回大倭会文化行事報告

霊界現界を越えて

大阪府枚方市 林 修三

令和8年5月24日、恒例の第354回大倭会文化行事が行われました。

今回は商都大阪のまん真ん中、大阪証券取引所1階ホールが集合場所でした。

参加者は8名。揃ったところで、まずは証券取引所から徒歩1分ほどの中之島薔薇園へ。五月晴れのさわやかな天気のもと、今を盛りに咲き誇る3700株の色とりどりの薔薇を楽しみながら、暫し逍遙。続いてその薔薇園を抜けて歩いて5、6分の日本一長いと言われる天神橋筋商店街へ。ここで先ずは案内役恒例の馴染みの珈琲屋さんへ。

ここでは昔ながらの古いお店の濃いめのコーヒーなどをいただきながら歓談。続いてそこから1分ほどの本日のメインイベントの地、菅原道真公を祭る大阪天満宮へ。ここは道真公が太宰府へと向かう途中に立ち寄られたという因縁の場所として建てられた場所です。現在は天神祭で全国にも名を馳せてはいますが、果たして道真公に思いを寄せて御詣りをする方々はいかほどおられることなのか？ せめて大倭に縁ある方々の今日の御詣りが、霊界、現界を越えて情ある繋がりともなればと祈りました。

この後、大阪城を目指す方々と商店街歩きを楽しむ方々のグループとで一旦お別れしましたが、なんの因果か、もう一度同じ薔薇屋での再会を果たし、また、各々の地への散会となりました。

法主・言の葉



霊界人と現界人とが共に手を結んで宇宙創生の大加美さんに対して絶対的に帰依するお祈り、これが本当のお祭りなんです。

あじさい日誌

6月8日 午後5時から教務本
庁で本紙『おおやまと』の編集
会議が開かれました。

邑人の中島充世さんが無事退
院されました。

6月13日 邑人の山崎正知さん
が無事退院されました。

午後6時から大倭町自治会の
役員会が大倭会館で開かれまし
た。

6月14日 午後2時から大倭会
主催の祓会が開かれました。今
回のテーマは「うそ」について
でした。

6月15日 午後2時から大倭神
宮の月次祭が行われました。

6月17日 正午過ぎ奈良市の鳥
殿昌子さんの車に同乗して伊勢

市の阿部文夫・桂子さんが来邑
され、大和郡山市の森田礼子さ
んとともに教務本庁で杉本順一
さんと歓談され、この後大倭神
宮に参拝されました。

6月23日 午後2時から大倭大
本宮の月次祭が行われました。

この日は昭和38年6月23日の
法話をお聞きしました。

6月26日 紫陽花邑で捕獲され
たアライグマを奈良市から引き
取りに来てくれました。

6月28日 昨年大倭に来られた
奈良市の長谷川さんのご案内
で、関西在住の8名の方が来邑
され林修三さんが紫陽花邑と大
倭神宮を案内されました。

6月29日 本紙『おおやまと』
の編集会議が教務本庁で開かれ
ました。

7月5日 午前8時から大倭墓

地の掃除が行われました。
7月6日 午後2時から大倭神
宮の月次祭が行われました。雨
のため社務所においての祭典で
した。

午後6時半から大倭会館にお
いて邑倭の会が開かれました。
大倭安宿苑では

(菅原園)

6月17日 午後からコスメサー
クルを行い、参加された方はハ
ンドクリームなどを使いマッ
サージを受け、職員との会話を
通してスキシップを図り楽し
そうに過ごしました。

6月25日 日帰り旅行で海遊館
に行きました。天保山マーケッ
トプレイスに到着後、それぞれ
のペースで昼食を楽しみ、メイ
ンの海遊館見学では、ジンベ
イザメやアザラシなどの大きな生
き物に興味津々で見入る姿や、
ペンギンを笑顔で見て喜ばれて
いました。人の多さに緊張や疲
れを感じたりする方もいました
が、見学後の自由行動で、たこ

焼きやソフトクリーム、ジュ
ースなどを堪能し、お土産選びを
楽しみ終始賑やかで満足度の高
い特別な一日となりました。

(須加宮寮)

6月18日 午後より単独水害避
難訓練を行いました。垂直避難
なので、2階のご利用者が3階
に避難しました。その際、一部
屋分のベッドもエレベーター利
用し、3階へあげました。人員
確認については3階の方は居室
前に立ってもらい、2階の方は
共用部に集まって行いました。

(長曾根寮)

6月23・25日(日) 作品づく
りでカタツムリの壁掛け飾りを
作り、自宅に持って帰ってもら
いました。

6月24日(特養) ボランティア
団体の音楽レクリエーションに
て音楽鑑賞と合唱を行いました。
(茂毛路園)

6月19日 紫陽花観賞会とし
て、午後より大倭安宿苑法人門
扉付近に咲いている紫陽花を見
てもらい、皆さんは「綺麗やな」
と喜んでいました。「紫陽花の
香りがする」と香りを嗅いでお
られました。観賞後はフロアで
水分補給をして熱中症予防に努
めました。

(八重垣園)

6月17日 理美容を行いました。
3カ月ぶりに髪をカットし
てもらい皆さんスッキリしたと
喜ばれていました。

あんない

*月次祭(大倭神宮)

8月6日(木) 午後2時より大
倭神宮にて。

*大倭会祓会

8月9日(日) 午前9時より
「掃除みそぎ」として、大倭紫
陽花邑境内の大掃除です。昼食
は用意されます。

これに先立ち午前8時より大
倭墓地の大掃除が行われます。

*大倭立教開宣祭
8月15日(土) 午後2時より大
倭神宮にて。

*月次祭(大倭大本宮)
8月23日(日) 午後2時より大
倭大本宮拝殿にて。

*東光大祭及び祖霊祭
8月27日(木) 午前11時30分
から東方の碑、正午からは拝殿に
て。(詳しくは上記参照)

青森からの便り

青森市 高橋 延之

エゾハルゼミの声が響いてま
す。3週間毎に西屋村大秋の登
矢守さんを祀る土地の草刈りに
通い、獄温泉(法主様が宿泊さ
れたことがあります)で休んで
帰宅。他の霊地での苦勞に比
べたら楽で楽で恐縮です。

また別の報告ですが、大雪で
上皇宮(旧相馬村)の長慶天皇霊
地)の拝殿は倒壊しました。

東光大祭 祭典のご案内

令和8年8月27日(木曜日・旧7月15日)

午前11時30分から、東方の碑で加美さまにご挨拶。
正午から、奥津齋庭において祖霊祭が行われます。

祖霊祭が終わり次第、拝殿に教長さんをお迎えして
東光大祭が行われます。

祭典後、皆様各ご家庭の経木をお渡しします。

祖霊祭の間、拝殿では法主様の東光大祭でのご
法話や紫陽花邑の記録映像等をご用意します。

【注意】

祖霊祭の経木への書き込み受付は

7月25日まで。日数に限りがありますので、
お忘れのないようお願い致します。



天保山の海遊館で